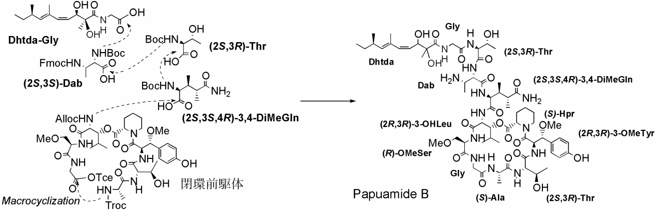
29P-am005

海洋産環状デプシペプチド　パプアミド B の合成研究

◯坂口　昌[1], 原　聡亮[1], 永田　江里[1], 藤江　妙子[1], 牧野　一石[1], 濱嶋　祥就[1], 濱田　康正[1]([1]千葉大院薬)

【目的】パプアミド B は 1999 年 Boyd らにより海綿から単離構造決定された強力な抗 HIV 活性を有する環状デプシペプチドである。構造上の特徴として構成する 11 個のうち、7 個のアミノ酸が構造異常アミノ酸である上に、ジエンを有する長鎖脂肪酸 Dhtda を含み、非常に複雑な構造を有している。当研究室では、すでに構成成分のうち 3-メトキシチロシン (3-OMeTyr)と Dhtda の相対および絶対立体化学に関して決定している。今回我々はパプアミド B の全合成を目指しその研究に着手した。

【方法】各アミノ酸を合成後、環状デプシペプチド部を合成後、順次側鎖アミノ酸を導入していくこととした。



【結果】現在、パプアミド B 合成の最終段階を検討中である。